

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年11月2日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇普通期水稻◇ (夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)

収穫は、ほぼ終了しました。全ての品種において、7月の低温・日照不足の影響により穂数が少なく、9月上旬の台風の影響で、粒の充実も劣ります。「夢つくし」を中心にトビイロウンカの被害も多かったことから、収穫量は平年に比べて少ないです。「夢つくし」は高温障害、「元気つくし」、「ヒノヒカリ」は、台風の影響による充実不足や白未熟粒が多く、一等米比率は、平年に比べて低いです。「実りつくし」の一等米比率は、台風による影響も少ないことから、前年に比べ高い見込みです。

縞葉枯病の発生地帯では、速やかに稲株をすき込み発生拡大を防止しましょう。排水対策や土づくりなど、後作麦の準備を計画的に行いましょう。

### ◇大豆 (フクユタカ) ◇

「フクユタカ」は現在、黄葉期～落葉期です。収穫は、11月5日頃から開始、最盛期は11月15日～11月30日の見込み(平年よりやや遅い)です。9月の降水量が少なく、粒肥大への影響が懸念されます。本年は、播種時期が遅く、主茎長が短く、最下着莢位置も低いため、刈り取りロスの発生が懸念されます。青立ち株の発生は少ないです。

本暗きよの栓は確実に開けましょう。青立株や大型雑草は、汚粒発生や収穫作業の支障となるため、早めに抜き取りを行いましょう。最下着莢位置に留意し、収穫時に土をかき込まないように刈取り高さを調整して収穫しましょう。倒伏している場合は、リフターキットを装着し、刈取りロス軽減に努めましょう。

### ◇冬春ナス (施設) ◇

台風により一部で定植が遅れましたが、9月下旬までに終了しました。生育初期の高温により、葉焼け等が発生しましたが、日中の好天と夜温の低下により、生育は順調に推移しています。早期定植は摘心を開始。果実品質も良好です。病虫害は、コナジラミ類が散見されますが、アザミウマ類の発生は少ないです。すす斑病等の病害はないが、一部で青枯れ病が発生しています。

急な低温に備え、加温準備やマルチ被覆を行いましょう。主枝摘心までは樹づくりのための管理を行いましょう。害虫対策とあわせて、今後は茎えそ細菌病や灰色かび病などの予防対策を徹底しましょう。

### ◇青ネギ◇

7月豪雨による播き直しの影響から回復し、出荷量は例年並みに回復しています。好天により生育は順調です。シロイチモジヨトウやハモグリバエ類が小発生しています。

低温期の土壤水分過多は葉折れや葉先の凍害の要因となるので、生育中期からかん水制限を行いましょう。アザミウマ類、ネギハモグリバエなどの害虫対策を徹底しましょう。

#### ◇温州ミカン◇

極早生は10月末でほぼ出荷終了しました。出荷量は、生理落果や高温乾燥による日焼け果の増加により前年より少ないです。着色推移は前年並み、果実糖度は前年よりやや高いです。「早味かん」は、9月中旬～10月中旬に567t程度出荷し、403円/kgの高単価での販売（系統供販実績）でした。「北原早生」は10月中旬から出荷を開始し、11月上旬に終了予定。着色推移は前年並み、果実糖度は前年よりやや高いです。病害虫は、全体的に黒点病の発生が多く、極早生種の一部で、アザミウマ類が発生しています。

収穫前には、貯蔵病害の対策、腐敗果や病害虫被害果の除去等の樹上選果を徹底しましょう。収穫時は、ハサミや枝による傷がつかないように、果実の取扱いを丁寧に行いましょう。マルチ栽培園は、収穫終了後速やかにマルチを除去し、雨水を入れるとともに、適期に秋肥を実施し、樹勢回復に努めましょう。

#### ◇カキ◇

現在、「秋王」や「松本早生富有」が出荷中です。着果量は、全般的に春季の生理落果が多く前年より少ないです。また、果実肥大も梅雨時期の日照不足や夏期の少雨で、前年より小さいため、出荷量は前年より少ないです。果実品質は、台風による傷が原因と考えられる軟熟果が多いです。

適期収穫に努めるとともに、軟熟果の混入防止のため選果を徹底しましょう。炭疽病の罹病枝・被害果の除去、園外への持ち出しを徹底しましょう。

#### ◇施設ギク◇

「精の一世」「フローラル優香」の9月出荷作型の出荷量は、7月の低温傾向により奇形花発生は少ないですが、大雨や台風による倒伏等で、前年よりやや少ないです。11～12月出荷作型の生育は、おおむね順調です。コロナ禍の影響で輸入が減少し、国内産スプレーギク等の需要が高まり、輪ギクからの転換が進み輪ギクの作付面積はやや減少する見込みです。10月からアザミウマ類、ハダニ類の発生が増加しています。

急な低温に備え加温準備を行い、電照打ち切り前も夜温15℃を確保しましょう。白さび病の発生を抑制するため、湿度管理に留意しましょう。白さび病の予防やアザミウマ類、ハダニ類の対策を徹底しましょう。

#### ◇畜産◇

枝肉単価は和牛去勢が前年比97%、過去5年平均比93%と低下しています。外食需要等により、一定の効果は出ているものの昨年度並みには回復できていない状況です。省令価格（交雑種相当）については、前年比91%、過去5年平均93%と低下しています。

病気発生を予防するための農場衛生管理を徹底しましょう。サシバエが増える時期で、農場の害虫防除も配慮しましょう。イタリアンライグラスの播種が終わってない場合は、播種適期の11月上旬までに終わらせましょう。